

**第2期荒尾市教育振興基本計画
令和6年度数値目標報告書**

令和8年3月

荒尾市教育委員会

「第2期荒尾市教育振興基本計画の進捗状況」の 点検及び評価について

1. 第2期荒尾市教育振興基本計画（計画年度：令和4年度～令和8年度）の進捗状況に関する点検・評価

第1期計画に引き続き、「荒尾市教育委員会の事務の点検及び評価」により計画の進捗状況を点検・評価し、必要に応じて改善を図ることとする。

2. 点検・評価の方法

「第2期荒尾市教育振興基本計画 数値目標一覧」により、第2期荒尾市教育振興基本計画に掲げる数値目標の達成状況の確認を行う。

また、基本方針に基づく主な取組状況について、「第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況」により、前年度の主な取り組み内容や課題点等について評価し、目標達成のために改善が必要な事項等については、次年度以降の改善に繋げていく。

第2期荒尾市教育振興基本計画 数値目標一覧

【基本方針1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する】

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	達成 状況	所管課	測定方法
1-1 確かな学力の育成	全国学力・学習状況調査正答率	小学校国語	全国平均を 上回る	68.0% 全国平均(64.7%)を 上回る	65.0% 全国平均(65.6%)を 下回る	63.0% 全国平均(67.2%)を 下回る	68.0% 全国平均(67.7%)を 上回る	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		小学校算数		71.0% 全国平均(70.2%)を 上回る	62.0% 全国平均(63.2%)を 下回る	55.0% 全国平均(62.5%)を 下回る	61.0% 全国平均(63.4%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校国語		61.0% 全国平均(64.6%)を 下回る	64.0% 全国平均(69.0%)を 下回る	64.0% 全国平均(69.8%)を 下回る	52.0% 全国平均(58.1%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校数学		51.0% 全国平均(57.2%)を 下回る	40.0% 全国平均(51.4%)を 下回る	41.0% 全国平均(51.0%)を 下回る	42.0% 全国平均(52.5%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」と思う児童生徒の割合	小学校	全国平均を 上回る	80.7% 全国平均(78.2%)を 上回る	74.2% 全国平均(72.2%)を 上回る	69.9% 全国平均(78.8%)を 下回る	74.8% 全国平均(82.0%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校		77.6% 全国平均(81.0%)を 下回る	73.2% 全国平均(79.2%)を 下回る	74.7% 全国平均(79.2%)を 下回る	76.5% 全国平均(80.3%)を 下回る		学校教育課	全国学力・学習 状況調査
	生徒が英語力を身に付けた割合	英検3級相当 取得率 (中学3年生)	40.0%	30.2%	23.7%	23.3%	24.9%		学校教育課	英語教育実施 状況調査
	1-2 未来を拓く力の育成	「将来の夢や目標」を持っている児童生徒の割合		全国平均を 上回る	69.3% 全国平均(74.5%)を 下回る	71.2% 全国平均(73.5%)を 下回る	75.2% 全国平均(73.9%)を 上回る	71.7% 全国平均(74.4%)を 下回る		学校教育課
「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している」と思う児童生徒の割合		69.6% 全国平均(68.4%)を 上回る	70.1% 全国平均(69.8%)を 上回る		— ※1	— ※1		学校教育課	全国学力・学習 状況調査	
学校情報化優良校の認定取得割合		80.0%	7.7%	92.3%	100.0%	100.0%	達成	学校教育課	日本教育工学協会「学校情報化 認定制度」	

※1 当該年度の全国学力・学習状況調査での設問無し。

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	達成 状況	所管課	測定方法
1-3 豊かな心・健やかな体の育成	「自分にはよいところがある」と思う児童生徒の割合	小学校	全国平均を上回る	70.2% 全国平均(76.9%)を下回る	77.8% 全国平均(79.3%)を下回る	73.1% 全国平均(80.0%)を下回る	77.0% 全国平均(84.1%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	全国平均を上回る	75.3% 全国平均(76.2%)を下回る	72.4% 全国平均(78.5%)を下回る	74.9% 全国平均(83.5%)を下回る	81.9% 全国平均(83.3%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査
	毎日、朝食を食べる児童生徒の割合	小学校	全国平均を上回る	93.9% 全国平均(94.9%)を下回る	94.8% 全国平均(94.4%)を上回る	91.8% 全国平均(93.9%)を下回る	94.8% 全国平均(93.7%)を上回る	達成	学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	全国平均を上回る	94.0% 全国平均(92.8%)を下回る	89.9% 全国平均(91.9%)を下回る	89.8% 全国平均(91.2%)を下回る	90.0% 全国平均(91.2%)を下回る		学校教育課	全国学力・学習状況調査
	全国体力・運動能力、運動習慣等調査で全国平均を上回る実技種目数の割合(全国平均を上回る種目数/対象種目数)	小学校	全ての実技種目で全国平均を上回る	男子:7/8 女子:7/8	男子:4/8 女子:5/8	男子:7/8 女子:7/8	男子:7/8 女子:7/8		学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
		中学校		男子:7/9 女子:6/9	男子:9/9 女子:9/9	男子:8/9 女子:8/9	男子:8/9 女子:7/9		学校教育課	全国体力・運動能力、運動習慣等調査
1-4 人権を守る教育の充実	「いじめはどんな理由があってもいけないことだ」と思う児童生徒の割合	小学校	100%	96.7%	97.1%	96.8%	96.4%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	95.8%	95.1%	97.6%	97.7%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
	「人が困っているときは、進んで助けている」と思う児童生徒の割合	小学校	100%	85.9%	89.3%	90.8%	92.2%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	88.5%	85.5%	87.4%	87.9%		学校教育課	全国学力・学習状況調査
1-5 幼児教育・義務教育から高校教育までを見据えた教育環境の魅力向上	荒尾市で子育てをしたいと思わない理由として「子供の教育環境が充分でないから」を挙げる人の割合 ※1		36.5%	46.5%	33.3%	46.9%	40.6%		教育振興課	まちづくりアンケート

※「荒尾市で子育てをしたいと思うか」の問いに対して、そう思わないと回答した層(R6:19.9%)に対する設問及び回答結果

【基本方針2 学びを支えるためのセーフティネットを構築する】

基本的施策	数値目標	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	達成 状況	所管課	測定方法
2-1 多様なニーズに対応した教育の 推進	「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った」と評価する学校の割合	小学校	100%	90.0%	100%	100%	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
		中学校	100%	100%	100%	100%	達成	学校教育課	全国学力・学習 状況調査
2-2 教育相談及び教育支援体制の 充実	適応指導教室(教育支援センター) の整備数	4拠点	2拠点	4拠点	4拠点	5拠点	達成	学校教育課	整備事業取組 状況
	不登校の児童生徒が、教職員だけではなく専門家からの支援を受けている割合	100%	89.1%	92.6%	100.0%	100.0%	達成	学校教育課	定例報告(専門 家の活用状況)
2-3 学びと育ちの支援	就学援助制度の認知度	100%	—	—	83%	84%		教育振興課	保護者アン ケート等

【基本方針3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する】

基本的施策	数値目標	目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度 ※1)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	達成 状況	所管課	測定方法
3-1 人生100年時代を見据えた生涯 学習社会の実現	市立図書館来館者数	150,000人	21,773人	284,244人	228,016人	230,475人	達成	生涯学習課	事業実施状況
	中央公民館来館者数	※2(令和7年度) 44,590人	20,404人	28,124人	30,993人	28,592人		生涯学習課	事業実施状況
3-2 生涯スポーツの振興及び生涯学 習活動施設の整備充実	スポーツに関する環境の満足度	41.8%	33.3%	33.8%	36.1%	33.7%		生涯学習課	まちづくりアン ケート
	運動習慣がある人の割合	※2(令和7年度) 男性:63.0% 女性:48.0%	男性:56.0% 女性:45.0%	男性:57.0% 女性:42.0%	男性:61.0% 女性:46.0%	男性:58.0% 女性:46.0%		生涯学習課	まちづくりアン ケート
3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関 する学習機会の充実	文化・教養に関する環境の満足度 ※1	45.0%	35.3%	38.6%	42.8%	39.6%		観光文化交流課	まちづくりアン ケート
	小中学生対象郷土学習の参加者数 ※1	700人	242人	524人	2,179人	1,174人	達成	観光文化交流課	事業実施状況

※1 計画策定時の現状値について、基本的施策「3-3 ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実」については令和2年度の実績値を記載。

※2 市総合計画(計画期間:令和2年度～令和7年度)の重要業績評価指標としても設定していることから、令和7年度時点の目標値を記載。

令和8年度については、実績値をもって評価検証。

【基本方針4 地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる】

基本的施策	数値目標		目標値 (令和8年度)	現状値 (令和3年度)	実績値 (令和4年度)	実績値 (令和5年度)	実績値 (令和6年度)	達成 状況	所管課	測定方法
4-1 教育環境の整備・充実	コミュニティ・スクールにおける「学校の教育環境の整備・充実」についての評価点数		※2(令和7年度) 3点以上/4点	—	3.77	3.31	3.37	達成	学校教育課	コミュニティ・スクールにおけるアンケート
4-2 学校の指導、運営体制充実と働き方改革の推進	教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合		100%	—	35.5%	39.8%	41.5%		教育振興課	タイムカードシステムから抽出
4-3 児童生徒の安全確保	各学校危機管理マニュアルの点検・見直しを実施した学校の割合		100%	—	100%	100%	100%	達成	学校教育課 教育振興課	学校アンケート等
4-4 家庭、地域、学校の連携・協働の推進	地域学校協働活動推進員の発掘による支援ボランティア活用延べ人数		6,500人	6,624人	6,525人	6,752人	6,148人		生涯学習課	事業実施状況
	学校支援ボランティア延べ人数		※2(令和7年度) 28,240人	23,899人	23,114人	29,361人	27,551人		生涯学習課	事業実施状況
4-5 感染症や自然災害等のリスクを踏まえた持続的学びの確保	遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていると評価する学校の割合	小学校	100%	80.0%	80.0%	70.0%	— ※1		学校教育課 教育振興課	全国学力・学習状況調査
		中学校	100%	66.7%	66.7%	70.0%	— ※1		学校教育課 教育振興課	全国学力・学習状況調査

※1 当該年度の全国学力・学習状況調査での設問無し。

※2 市総合計画(計画期間:令和2年度～令和7年度)の重要業績評価指標としても設定していることから、令和7年度時点の目標値を記載。令和8年度については、実績値をもって評価検証。

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和6年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和6年度）	課題など	担当課
<p>1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する</p>	<p>基礎学力の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●「進化型あらおベーシック」授業の定着と質の向上 新学習指導要領が掲げる「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、子どもたちが自ら課題を発見し、解決していく学習「進化型あらおベーシック」授業の定着を目指し、平成30年度から展開している授業改善アドバイザー事業を中心に児童生徒を主体とした協働的な授業づくりを推進した。 ●授業改善アドバイザー事業 授業改善アドバイザーを招聘し、4月に荒尾市に赴任した全ての教職員を対象に「進化型あらおベーシック」研修会を実施した。 また、同アドバイザーによる学校への直接訪問指導を年間計13回実施した他、学力向上対策部会で「進化型あらおベーシック」4つの市内共通実践事項を設定することで、教職員の指導力向上を図り、誰一人取り残すことのない学力の育成に努めた。 	<p>「進化型あらおベーシック」授業の定着を目指した取組は7年目となるが、基本的施策「1-1確かな学力の育成」の数値目標の全ての達成には至っていない状況にある。</p> <p>しかしながら、小学校の全国学力・学習状況調査の国語正答率では全国平均を上回るなど、一部では目標を達成するなどの成果が見られる。また、小学校の総合学力調査正答率では、全国平均に達していないものの、目標値は全ての学年、教科で達成できている。なお、熊本県学力状況調査においては、県平均に達することはできなかった。</p> <p>中学校では、全国平均には及ばないものの県平均との差が縮まる傾向にある。また、総合学力調査正答率は全国平均に達していないものの、目標値は約半数の学年、教科で達成できている。そして、熊本県学力状況調査においては、中2数学が県平均を上回ることができた。</p> <p>一方で、学力の未定着層の児童生徒も少なくなく、学力の二極化が課題となっている。誰一人取り残すことなく学力を保证するため、「進化型あらおベーシック」授業による全員参加、一人一人が活躍する授業づくりを継続する必要がある。今後も授業改善アドバイザーによる派遣指導等を活用し、市内全小中学校で「進化型あらおベーシック」授業を定着・充実をさせていきたいと考えている。</p>	<p>学校教育課</p>

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和6年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和6年度）	課題など	担当課
1 夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	英語教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●英語教育充実事業 ●英語検定チャレンジ事業 英語教育に関わる小中学校の教員を対象とした研修を年間5回実施し、授業研究会や小中学校の授業における成果と課題等を共有することで、英語教育のスキルアップを図った。 また、市内中学校の1年生から3年生までを対象とし、実用英語技能検定（英検）について、生徒の希望級の受験料を市が負担して実施（財源として荒尾子ども未来基金及び県補助金を活用）することで、生徒全員が英検に取り組む体制を構築し、英語への関心を引き出し、学習意欲の向上に努めた。 	<p>児童生徒の英語力および学びに対する意欲は、学年が上がるにつれて低下する。数値目標「生徒が英語力を身に付けた割合（CEFR A1レベル相当以上取得）」については令和6年度24.9%で、前年度23.3%から向上したが、目標には達していない状況にある。</p> <p>今後ますます社会のグローバル化が進み、英語力の必要性が高まると考えられる。英語教育をさらに推進し、英語授業における教員の指導力向上とともに、学校教育活動を通じた英語の日常化を図り、本市の子供たちが、社会に出て通用する英語力を身に付けることができるよう、継続的に取組を進めていく。</p>	教育振興課
	ICTを活用した教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ●小中学校ICT環境整備事業 GIGAスクール構想により整備したタブレットの整備・運用に加え、ICT支援員を配置し機器の活用等に関する支援を行う等、学校における校務支援を含む、ICT環境整備及びその活用を推進した。 また、令和6年度はクラウド型デジタル教科書・教材等をより円滑に利用できるようインターネット回線の改修（ローカルブレイクアウト）等の環境整備を進めた。 ●一人一台端末を活用した学習の推進 これまでの教育実践の蓄積と合わせてGIGAスクール構想により整備したタブレット等のICT機器活用の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、学習活動の一層の充実に繋げることができた。 	<p>基本施策「1-2未来を拓く力の育成」における数値目標「学校情報化優良校の認定取得割合」は令和6年度は令和5年度に続き100%を達成している。タブレットや電子黒板等のICT機器は、思考を可視化し表現することや他者と交流するなど、学習内容の理解を深めたりする際に効果的であり、これまでの教育実践の蓄積と合わせてICT活用の充実を図ることで、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を進め、学習活動の一層の充実に繋がっている。</p> <p>今後の課題として、ICTの活用が授業の目的となってしまうことがないように教職員一人一人の授業改善を進めていくことや、家庭学習等でのICT活用の推進が必要と考えており、これまでの教育実践とICTのベストミックスを図ることができるよう、継続して取組を推進していく。</p>	学校教育課 教育振興課

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和6年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和6年度）	課題など	担当課
2 学びを支えるためのセーフティネットを構築する	不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保	<p>●フリースクール事業</p> <p>●小袋教室事業 平成13年度に校外教育支援センター（小袋教室）1か所を開設、令和2年度に、荒尾第三中学校に校内教育支援センター（ハートフルルーム）を設置。 令和4年度には荒尾海陽中学校と荒尾第四中学校内に校内教育支援センター（ハートフルルーム）を設置している。 令和6年度からは小学校の拠点として桜山小学校に教育支援センターを開設し、不登校児童生徒の居場所づくりに取り組んでいる。 市内の不登校児童生徒が第三の居場所として活用し、社会的自立に向けた第一歩を踏み出すことができ、令和6年度の利用実績は、校外・校外教育支援センター合計で58名の不登校児童生徒が活用した。</p> <p>●心の教室相談及びスクールソーシャルワーカーの活用 様々な悩みを抱える生徒及びその保護者に対し、各中学校に配置した心の教室相談員が適切に教育相談を実施し、生徒等の心に寄り添った対応を行った。 また、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを配置し、福祉等の関係機関との連携や情報共有を行いながら、様々な課題を抱える児童生徒等への早期支援や相談体制の充実に努めた。</p>	<p>基本的施策「2-1多様なニーズに対応した教育の推進」の「特別支援教育について理解し、児童生徒の特性に応じた指導上の工夫を行った学校の割合」、「2-2教育相談及び教育支援体制の充実」の「教育支援センターの整備数」の数値目標は令和6年度に新たに5拠点目を開設したことで、目標（4拠点）を上回ることができた。 さらに、「不登校の児童生徒が、教職員だけではなく専門家からの支援を受けている割合」も目標の100%に到達している。 今後の課題として、中学校の不登校生徒に対する支援が進んでいるが、小学校における不登校児童は増加傾向にあり、その児童に対する支援が課題となっている。 中学校に開設している校内教育支援センター（ハートフルルーム）で培ったスキルを活かし、小学校へも取組の幅を広げていくことにより、不登校児童の支援に繋げていく。 また、不登校対策をはじめ、多様化する児童生徒等の問題に対する適切な相談対応等を行っていくための人員体制の確保・維持が課題となっていることから、様々なネットワークを活用し、人材確保に努めていく必要がある。</p>	学校教育課 教育振興課

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和6年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和6年度）	課題など	担当課
3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	生涯学習の学びの機会や場の充実	<p>●新図書館を活用した読書活動の推進 令和6年度は、閲覧席の増設（テーブルや椅子）を行い、館内展示に使用する木製ボックスも市民向けワークショップで制作し、利用者が快適に過ごせるような環境整備を図った。 また、図書館主催の自主事業などの多様な取組を通して、多世代の居場所づくりに努めており、幼児から中高生、高齢者までの幅広い年齢の方々が利用している。また、書店共催の講演会、図書館まつり、クリスマスイベント、センターコートやシティホールを活用したイベント、他のテナントと連携した取組等には市内外からの参加者もあり、ゆめタウンシティモール全体のにぎわいや活性化にもつながっている。</p>	<p>図書館移転後3年目となり、基本的施策「3-1人生100年時代を見据えた生涯学習社会の実現」における「図書館来館者数」は、令和6年度230,475人で、令和5年度228,025人から増加した。 特に、中高生の学習利用も多く、子どもたちが日常的に過ごす場所として定着している。課題として貸出冊数が目標に達していないため、来館者が本に興味を持ち、借りたくなるような取組を強化していく必要がある。</p>	生涯学習課
	生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実	<p>●スポーツ環境の整備・充実 運動公園施設は、老朽化が目立つ状況にあり、既存施設をはじめとした社会体育施設については改修等の長寿命化に取り組んでいる。 令和6年度は野球場バックネット改修等を実施し、防球機能の改善を行うことで、より安全に利用できる環境の整備・充実に努めた。 併せて、万田中央体育館の屋根の改修を行うとともに、市民体育館の屋根の改修等にも着手した。</p>	<p>基本的施策「3-2生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実」における数値目標については、微増傾向が続いていたが、令和6年度は「スポーツに関する環境の満足度」、「運動習慣がある人の割合」とともに減少している。 今後、老朽化した市民体育館等の運動公園施設更新の検討を進め、予算確保に努めながらスポーツ環境のさらなる充実を図る必要がある。 また、中学校部活動の地域移行が進められる中で、指導者確保が課題となっており、各種目競技団体と連携しながら取組を進めていく。</p>	生涯学習課

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和6年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和6年度）	課題など	担当課
<p>3 生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する</p>	<p>ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実</p>	<p>●青少年交流事業（文化交流の推進） 令和元年9月に本市がシンガポール国家文物局と締結した、荒尾市宮崎兄弟資料館とシンガポール孫中山南洋記念館・晚晴園との施設間交流を礎に、青少年交流等において協力を行う事などを定めた基本合意書に始まるもので、荒尾の未来を担う「グローバル」な人材育成と確保を目的に「荒尾市青少年国際交流推進事業」に取り組んでいる。 令和6年度は、前年度に対面交流を行ったシンガポールのリバーバリーハイスクールの学生20名、教師4名が荒尾市を訪問。荒尾海陽中学校茶道部によるウェルカムセレモニーでの呈茶、荒尾第三中学校での授業や給食の体験、琴や日本舞踊といった日本文化の体験などによる交流をとおり、双方の子どもたちの交流を深めるとともに、宮崎兄弟と孫文の歴史的意義について学び合った。</p> <p>●民俗文化財伝承・活用等事業（文化財の継承・保存・活用） 国指定重要無形民俗文化財であり、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」の一つである野原八幡宮風流を、次の世代にも郷土の芸能として保存継承していくことを目的として、練習、笠切（笠作り）、奉納に至るまでの一連の映像等を令和5・6年度に記録した。事業は令和6年度に終了し、「記録編」と「普及編」のDVD及び解説書、一般向けのリーフレットと子ども向けのパンフレットを制作した。</p> <p>●世界文化遺産の理解促進と観光資源としての活用 「明治日本の産業革命遺産」として世界遺産に登録されている「万田坑」について、その価値や魅力を市内外に発信するため、「明治日本の産業革命遺産」世界遺産協議会や構成自治体等と協力し、JRアプリスタンプラリーや構成資産を題材としたミステリー小説の制作など、観光資源としての活用に取り組んだ。 また、万田小学校と宇城市立三角小学校との子どもガイド同士の相互交流は、令和6年度も継続実施。さらに、万田小学校の児童は、3月の万田坑イベントのガイドとしても活躍し、郷土学習での学びが資産価値の発信や郷土愛の醸成に少しずつ拡充している。 令和5年度には炭鉱電車の一般公開を開始しており、令和6年度からは炭鉱電車の定期走行を毎月第2・第4日曜日に実施し、万田坑や専用鉄道敷跡の理解促進に努めた。また、万田坑の修理・耐震補強工事が令和5年度に終了したことで令和6年度からは一般公開エリアを拡大し、万田坑施設の見学ルートが更に充実した。</p>	<p>基本的施策「3-3ふるさとの自然、伝統、文化に関する学習機会の充実」における「文化的な環境に関する満足度」は令和6年度39.6%で前年度42.8%から低下した。 孫文と宮崎兄弟の友情を礎としたシンガポールとの相互交流は、令和4年度のオンライン交流から令和5年度の市内中学生のシンガポール訪問によるリバーバリーハイスクールとの直接交流、令和6年度のリバーバリーハイスクールの荒尾市訪問と着実に相互交流が進んでおり、今後も持続可能な形で定着させていく必要がある。 また、世界遺産や市内文化財の保存継承等については、資産の保全や情報発信などを継続していくには人材育成や修復・活用に伴う多額の費用が必要であるため、今後は国・県等の補助金だけではなく財源確保も視野に入れながら、事業を進めていく必要がある。</p>	<p>観光文化交流課</p>

第2期荒尾市教育振興基本計画 主要な施策取組状況（令和6年度分）

基本方針	主要な施策	主な取組状況（令和6年度）	課題など	担当課
4 地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	学校施設等の整備	<p>●学校施設長寿命化改良事業 国のバリアフリー化推進指針を踏まえて令和4年度に更新した「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づき、計画的な学校施設の改修に取り組んでいる。 令和6年度は4校（小学校3校、中学校1校）においてバリアフリー化工事（バリアフリートイレ設置及び建物入口段差解消）を実施した。 また、令和7年度の改修に向けて、9校（小学校7校、中学校2校）のバリアフリー化工事の設計を行った。</p>	<p>基本的施策「4-1教育環境の整備充実」における数値目標「コミュニティ・スクールにおける学校の教育環境の整備・充実」の令和6年度の評価点数は3.37点と令和4年度、令和5年度に続き目標の3点以上を達成することができた。 課題として、本市では国のバリアフリー化推進指針に基づき、令和8年度末までに避難所に指定されている全ての学校施設（校舎・体育館）にバリアフリートイレの整備完了を目指して取り組んでいるが、未設置の割合が高く、必要な設置個所が多いため、設計・工事に多額の費用が必要となっている。 また、「荒尾市学校施設等長寿命化計画」に基づく学校施設の長寿命化改良工事等の大規模改修については、費用面に加え、工事の実施が学校教育へ与える影響を最小限に押さえ、教育活動が円滑に継続できる環境を確保する等の課題も考えられる。 今後、予算の確保に努めながら、学校施設の整備に継続的に行う。</p>	教育振興課
	教職員の働き方改革の推進	<p>●ICTの活用等 校務支援システムやグループウェア等のICT活用を推進し、教職員の業務効率化を進めるとともに、在校時間の適切な把握に努めた。 また、これまで学校が教育委員会に紙で提出していた資料や調査等について、順次、電子化を進め、ペーパーレスの促進及び教職員の負担軽減に図った。</p> <p>●教職員以外の人材活用 スクールソーシャルワーカーの配置や特別支援教育支援員の増員を行い、教職員が質の高い教育活動に専念できる環境整備に努めた。</p>	<p>基本的施策「4-2学校の指導、運営体制充実と働き方改革の推進」における「教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合」は41.5%で、目標には到達しないものの、令和4年度35.5%、令和5年度39.8%からさらに向上している。 今後、家庭からの欠席連絡の電話受付をシステム化する等、教育のDXを推進していくことで、教職員の働き方改革を更に推進していく必要がある。 また、多様化する児童生徒や保護者の困りごと等に適切に対応していくための教職員以外の人員確保にも継続的に取り組み、教職員の負担軽減が図られるよう、引き続き人材の確保及び活用に努める。</p>	学校教育課 教育振興課

第2期荒尾市教育振興計画の取組状況に関する概評(令和6年度事業)

事務点検評価委員:森江 一史

	基本方針	概 評
1	夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	基礎学力の育成については、正答率のみで教育の質や授業力を評価するのではなく、児童生徒一人一人の学習状況や生活習慣との関連を踏まえた分析が必要である。 「進化型あらおベーシック」や「授業改善アドバイザー」の取組は定着しており、今後は保護者や地域への周知を進め、理解と教育力の向上につなげることが期待される。 英語教育は数値目標には達していないものの、学習意欲の向上が見られることから、取組の継続が求められる。 ICT活用は授業改善に成果を上げており、今後は家庭学習での活用の一層の充実が課題である。
2	学びを支えるためのセーフティネットを構築する	「多様なニーズに対応した教育の推進」及び「教育相談・教育支援体制の充実」は、いずれも目標を達成しており、これまでの取組の成果は高く評価できる。特に、不登校児童生徒に対する多様な教育機会の確保については、関連事業が年々充実している。一方、小学校段階における不登校児童への支援は課題であり、中学校との連携を含めた支援体制の構築が求められる。今後は、「チーム学校」の視点からスクールソーシャルワーカーや学校支援ボランティア等を活用し、早期支援と相談体制の一層の充実を期待したい。
3	生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	「生涯学習の学びの機会や場の充実」では、図書館来館者数が目標を大きく上回るなど、新図書館を活用した読書活動の推進は成果を上げている。一方、貸出冊数は目標未達成であり、幼少期から読書に親しむ機会を広げる工夫を継続して行う必要がある。 「生涯スポーツの振興及び生涯学習活動施設の整備充実」では、計画的な環境整備が進んでいるが、スポーツ環境の満足度や運動習慣の向上には課題が見られる。指導者確保の難しさも踏まえ、生涯スポーツ推進に向けた人的環境の整備が求められる。 「ふるさとの自然・伝統・文化に関する学習機会の充実」については、財政面を考慮しつつ、持続可能な取組の継続を期待したい。
4	地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	「教育環境の整備」及び「児童生徒の安全確保」は、毎年目標を達成しており、教育活動を安定的に支える取組として評価できる。今後も、円滑な教育活動の継続に向けた環境整備を期待したい。 「教職員の働き方改革の推進」については、在校時間は減少傾向にあるものの、年間360時間以内の目標達成には課題が残る。特に在校時間の長い職種や時期を踏まえた分析を行い、教職員一人一人の意識改革と具体的な対応策の検討が求められる。併せて、スクールソーシャルワーカーや特別支援教育支援員等の活用・確保を進め、教職員の負担軽減につながる体制整備を期待したい。

第2期荒尾市教育振興計画の取組状況に関する概評(令和6年度事業)

事務点検評価委員:塚本 雅之

	基本方針	概 評
1	夢に向かってチャレンジし、未来を創造する力を育成する	<p>21区分の数値目標のうち3区分の達成となったが、未達成の18区分のうち9区分の実績値が令和4年度以降で最も高い数値となったことから、これまでに進めてきた授業改善が一定の成果を上げているものとする。</p> <p>なお、「全国学力・学習状況調査正答率」において小学校国語以外の3区分において数値目標が達成されておらず、全国平均値から大きく下回った区分もあり、一時期は全国平均を上回っていた「小学校における『授業では課題の解決に向けて自分で考え自分から取り組むことができていると思う』児童の割合」が前年度に引き続き全国平均を下回っている。児童生徒における学力の二極化が課題として認識されたことから、引き続き「事業改善アドバイザー事業」によって「進化型あらおベーシック」に基づく授業を教育現場に浸透させることで基礎学力の向上と各種数値目標の達成に努められたい。</p> <p>また、英語教育の推進については、数値目標のひとつである「生徒が英語力を身に付けた割合」が前年度から増加したことは、英語を身近なものにするために行ってきたこれまでの取り組みの成果であると考えられることから、引き続き工夫を重ねながら進めることで、児童生徒の将来における可能性を広げる素地づくりに努められたい。</p>
2	学びを支えるためのセーフティネットを構築する	<p>5区分の数値目標のうち4区分で目標を達成しており、そのうちの1区分は目標値を上回っていることを高く評価する。</p> <p>なお、児童生徒が不登校になる理由や原因は、家庭、学校、人間関係など様々であり、不登校という事実からその理由や原因に行き着くまでには相当の時間と努力が必要だが、児童生徒や保護者などと面談できる場所があり、児童生徒を取り巻く環境における問題や課題を解きほぐす人材が居り、必要であれば公的機関などと連携するという「不登校関連3事業における連携及び補完」ができています。引き続き不登校生徒への支援に努めると共に、不登校児童への支援の充実に努められたい。</p>
3	生涯にわたる学びを通じて、心豊かに生きられる環境を整備する	<p>6区分の数値目標のうち2区分で目標数値を大きく上回ったものの、他の4区分においては目標値を達成できなかったのみならず前年度実績値をも下回っていることから、基本計画の目標年次である令和8年度に向けた更なる取組みに期待する。</p> <p>なお、指定管理者の様々な取り組みによって「本に興味をもって貰える図書館」「利用しやすい図書館」になっており、幼児から高齢者まで幅広い年齢層において利用者が増加している。市民の知的欲求に答える生涯学習施設として今後も引き続き利用者本位のサービス提供に努められたい。</p> <p>また、幼少期から高齢期までには、身体の成長期におけるバランスの良い運動、競技スポーツ、あるいは健康維持(筋力維持)のための軽運動など、多くの市民がそれぞれの人生のステージにおいて「運動(スポーツ)」を必要としていることから、これからも多くの市民に利用されるよう運動公園施設の計画的な補修や改修などに努められたい。</p> <p>さらに、孫文と宮崎兄弟の縁に基づくシンガポールの学生との「青少年国際交流」、国指定重要無形民族文化財でありユネスコ無形文化財でもある「野原八幡宮風流」の「記録保存」やDVDやパンフレットなどによる「周知活動」、ユネスコの世界遺産に登録された「万田坑」の「理解促進と活用」など、青少年や市民が伝統・文化を学ぶ機会の創出に努めていることから、今後の取組みにも期待する。</p>
4	地域とともに、社会の変化に応じた教育環境をつくる	<p>5区分の数値目標のうち2区分で目標数値を上回ったものの、他の3区分のうち「教職員の時間外在校等時間が年360時間以内となっている割合」が目標の100%に対して41.5%と、計画期間の折り返し点となる令和6年度においても目標値の半分にも至っていない。教員志望の学生が減っている理由として「長時間労働など過酷な労働環境」「部活顧問など本業以外の業務が多い」などが挙げられていることから、有能な人材が自らの職業として「教職員」を選ぶようにするためには、校務支援システムやICTの活用あるいは事務の簡素化などによって教職員が本来の業務に充てる時間を十分に確保することで、教職員が「やりがい」「生きがい」「プロフェッショナル意識」を醸成することができるような職場環境が必要だと思われる。教職員の働き方改革は喫緊の問題であることから労働時間短縮につながる様々な環境整備を計画的に進めることで、目標年次までに目標値を達成できるように努められたい。</p> <p>なお、避難所として指定されている学校施設(校舎・体育館)は、何らかの障がいをもっている人もそうでない人も、誰もが同じように利用できるようにするために、それを阻害する物理的な障壁を解消するためのバリアフリー化が早期に完了することを期待する。</p>